

第27回（令和6年度） 下水道管路管理主任技士
 実地試験（Ⅰ. 成果報告書作成に関する実務）【解答用紙】

解答例

受験番号

【問1】 本管用調査記録表

上流マンホール					下流マンホール																															
マンホール番号	マンホール種別	マンホール深	土被り	マンホール蓋種別	路線番号	管種	管径	マンホール間延長	マンホール番号	マンホール種別	マンホール深	土被り	マンホール蓋種別																							
27	1号マンホール	1.63 m	1.35 m	铸铁	24-1	ヒューム管	φ 250 mm	20.82 m	28	1号マンホール	2.16 m	1.48 m	铸铁																							
マンホール内点検													マンホール内点検																							
異状なし													異状なし																							
継手部	継手数	管口	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	-	管口											管本数										
	写真番号																									[12 本]										
	内容																									管不良本数										
	距離 (m)	0.45																								[3 本]										
本管部	本管数	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	12												管本数										
	写真番号																									[3 巻]										
	内容	管の起 点 腐食 B																								布設年度										
	距離 (m)	0.45																								[平成 4 年]										
取付け管部	取付番号		T-1	T-2																						占用位置										
	写真番号																									1. 国道										
	内容		右取 付け 管	左取 付け 管																						2. 県道										
	距離 (m)		2.64	3.68																						3. 市町村道										
考察	(例) ・20.08付近のクラックを修繕する必要がある。 ・継手ずれや腐食及びたるみ等の異状が発生しているため、経過観察を行うとともに、改築や修繕の検討が必要がある。																																			
異状箇所 ※1	管の腐食		上下方向のたるみ			管の破損			管のクラック			管の継手ズレ			浸入水			取付け管の突出し			油脂の付着			樹木根侵入			モルタル付着			計 ※1					備考	
	A	B	C	A	B	C	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	a	b	c	A	B	C	a	b	c			
継手部																																			2	・スパン全体で表面が荒れた状態であり、骨材露出箇所が多く確認されたため「腐食B」と判定した。
本管部	1																																			・上下方向のたるみは、最大滞水深57mm (J-10付近)。
取付け管部																																				・T-3 (12.80) 付近の本管底部に洗掘による滞水がある。
計	1																																		2	・継手ズレは、J-3が22mm、J-9が28mm程度。
																																				・12本目のクラックは、破損とも判断できる。

※1 「取付け管の突出し」「油脂の付着」「樹木根侵入」「モルタル付着」については、清掃等で除去できる項目とすることから異状箇所数のみ () 内に表記し、集計の対象外とする。

【問2】 スパン全体の評価と緊急度の判定

正 答

受験番号

※ 試験問題の本管用調査記録表は、問1の解答とは異なります

(1) スパン全体で評価した場合のランク付け

診断項目	評価のランク
管の腐食	B
上下方向のたるみ	異常なし

※ 上記の診断項目についての評価ランク（「A」「B」「C」「異常なし」）を記入すること。

(2) 管1本ごとに評価した場合のランク付け

管1本ごとの不良ランク	不良本数 (本)	本管本数 (本)	不良発生率 ^{※1} (%)	評価のランク ^{※2}
a	2	15	13	B
b	2		13	
c	2		13	

※1 不良ランク（a、b、c）それぞれの不良発生率算定結果は、率の小数点以下を四捨五入して単位止まりとする。

※2 不良発生率によるスパン全体での評価ランク（「A」「B」「C」「異常なし」）を記入すること。

(3) 緊急度の判定

・上記の(1)スパン全体での評価結果及び(2)管1本ごとの評価結果により、

本設問管きよの緊急度判定は、「緊急度： II 」である。